

# コロナ禍の影響からみる高齢者のコミュニケーションの手段の変化

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団研究部 主任研究員 澤岡詩野

## 1. 背景と目的

定年退職や子育てからの卒業、虚弱化などにともない、高齢期は中年期に比べて交流や活動の機会も狭まっていくことが知られている。直接に会うことや集うことがむずかしくなっていくなかで、間接的なコミュニケーションの手段でつながりを保つことができれば、高齢期までに紡いできた交流を維持し、活動にも関わり続けられることが期待される。

諸外国では、スマートフォンやパソコンなどからインターネットを介して豊かに社会とつながり続けるスマートシニアと呼ばれる高齢者も増えつつある。近年では日本においても、都市部の団塊世代よりも若い層を中心にパソコンやスマートフォンを所持する人も増えつつあるが、同居家族との連絡手段や緊急時のお守りとして家に置いたままという人も少なくない。

この状況を変えたのが、外出や交流に制限が加わったコロナ禍の長い時間といえる。実際に、会うことや集うことができなくなった代わりにスマートフォンやパソコンからのメールなどでコミュニケーションをとる機会が増えたという声を聴くことも増えつつある。

コロナ禍をきっかけに、同居家族以外の身近な相手とつながりつづけるために、会ったり集うだけではない、オンラインなどを介したコミュニケーションに目を向ける高齢者が増えているのであれば、孤立防止や通いの場などへの支援もこれまでとは異なるアプローチが求められていることが考えられる。

本稿では、コロナ禍をきっかけに携帯電話やスマートフォン、パソコンなどをコミュニケーションの手段として活用するようになった人の存在に焦点をあてていく。具体的には、コロナ禍での変化を尋ねたQ43「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により、あなたの生活にどのような影響がありましたか」の質問に「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」と回答した人の特徴を、諸外国のデータと比較しつつ検討する。なお、分析に際しては、ひとり暮らし世帯に比べて見守りなどの対象になりにくく、世帯で日常生活が完結しがちな夫婦のみ世帯に着目する。

## 2. コロナ禍で「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた人」とは？

最初に、夫婦のみ世帯（2,448名）で「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」と回答した人の割合を国別に比較した。結果、アメリカ（64.1%）が最も多く、スウェーデン（52.9%）、ドイツ（46.7%）、日本（32.7%）が続いていた。

ここからは「夫婦のみ世帯」を対象に、国別に、メール、電話、オンラインでの連絡が「増えた」と回答した人の特徴を概観していく。

### ■男女の差（F1）

ドイツ（男性48.4%、女性44.8%）以外では、男女で有意な差がみられた。日本（男性27.9%、女性37.9%）、アメリカ（男性56.3%、女性72.5%）、スウェーデン（男性46.8%、女性60.5%）のいずれの国も、「増えた」と回答した人は男性よりも女性が多かった。

### ■年齢による差（F2）

平均年齢に有意な差が認められたのは、日本（「増えた人」70.8±6.5歳、「増えていない人」72.4±6.5歳）とドイツ（「増えた人」69.4±6.8歳、「増えていない人」71.7±7.5歳）で、いずれも「増えた人」の方が若かった。アメリカ（「増えた人」70.3±7.0歳、「増えていない人」71.7

±8.0歳)とスウェーデン(「増えた人」70.8±6.2歳、「増えていない人」71.4±7.4歳)では有意な差が認められなかった。

#### ■主観的健康感による差(Q4)

「健康である」から「あまり健康とはいえないが、病気ではない」「病気がちで、寝込むことがある」「病気で、一日中寝込んでいる」まで、当てはまる健康状態を尋ねた結果、「病気がちで、寝込むことがある(4.2%)」や「病気で、一日中寝込んでいる(0.5%)」を選択した人は5%に満たなかった。

「健康である」を健康群、「あまり健康とはいえないが、病気ではない」と「病気がちで、寝込むことがある」と「病気で、一日中寝込んでいる」を健康ではない群の2群にわけ、関連をみた。日本(健康33.9%、健康ではない31.1%)、アメリカ(健康64.8%、健康ではない61.5%)、ドイツ(健康50.0%、健康ではない45.0%)、スウェーデン(健康54.7%、健康ではない48.3%)で、いずれの国でも有意な差は認められなかった。

#### ■新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響

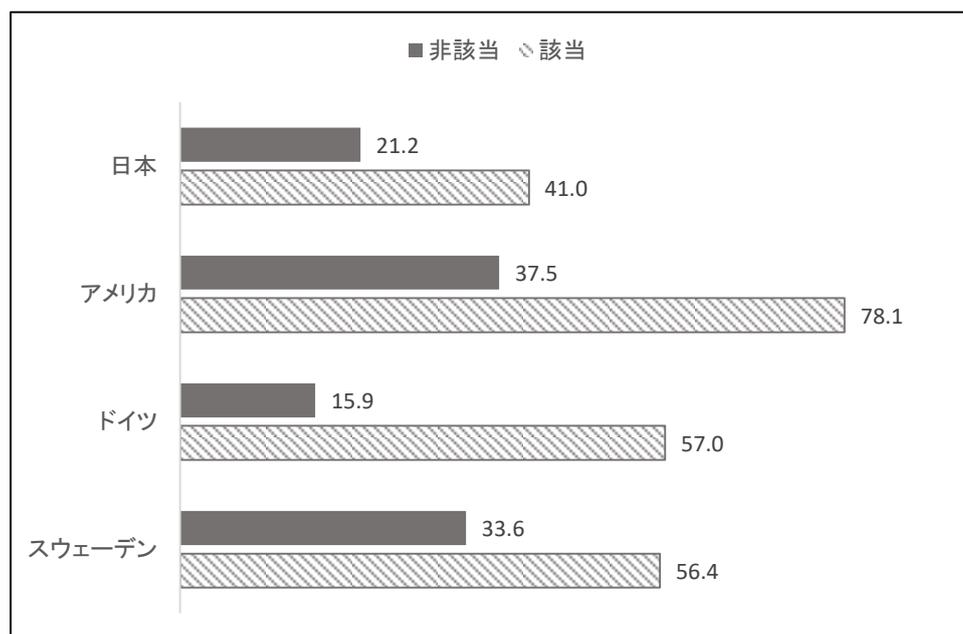
対象となった夫婦のみで生活する高齢者には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響として「友人・知人や近所付き合いが減った」や「別居している家族と会う機会が減った」と回答する人が7割程度存在していた。

この影響で「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」ことも考えられることから、関連を分析した。

：友人・知人や近所付き合いが減った(Q43-6)

日本では、友人・知人や近所付き合いが「減った人」の41.0%が「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」と回答したが、「減っていない人」では21.2%に留まった(図表1)。この傾向は、4か国に共通してみられた。

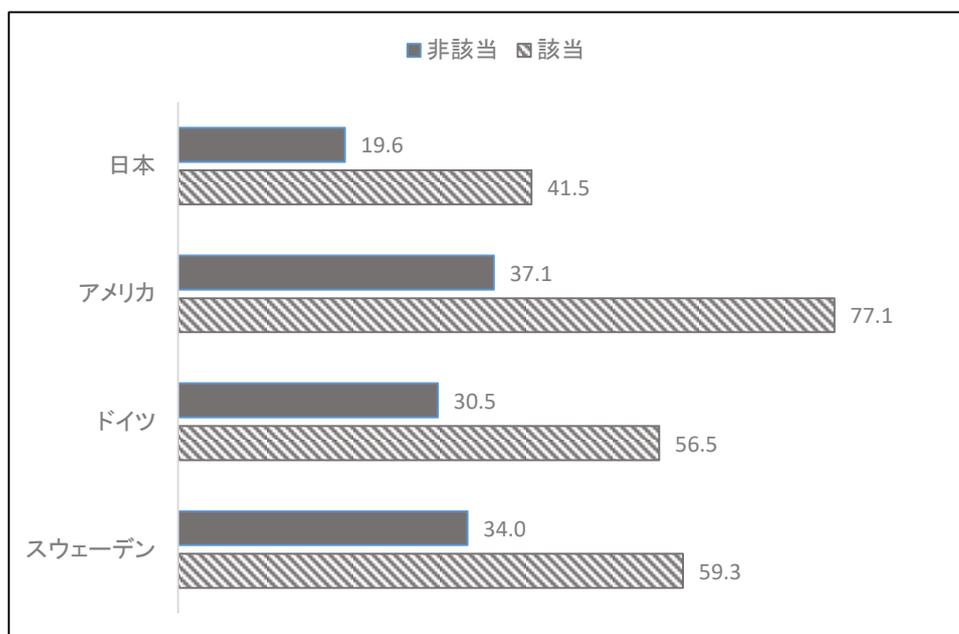
図表1 友人・知人や近所付き合いが減った



：別居している家族と会う機会が減った（Q43-7）

日本では、別居している家族と会う機会が「減った人」の41.5%が「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」と回答したが、「減っていない人」では19.6%に留まった（図表2）。この傾向は、4か国に共通してみられた。

図表2 別居している家族と会う機会が減った



### 3. 多変量解析からみた「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた人」の特徴

次に、コロナ禍で「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた人」がどのような特性をもつかを明らかにするために、日常的に利用するツール（Q33）やオンラインでの交流の有無（Q34）、新型コロナウイルス感染症による交流の変化（Q43）、性別、年齢を説明変数にコロナ禍で「メール、電話、オンラインでの連絡（増えた／増えていない）」との関連をロジスティック回帰分析で検討した。日常的に利用するツール（Q33）については「固定電話の日常的な利用（Q33-1）」「携帯電話の日常的な利用（Q33-5）」「スマートフォンの日常的な利用（Q33-6）」「タブレットの日常的な利用（Q33-7）」「パソコンの日常的な利用（Q33-8）」、オンラインでの交流の有無（Q34）については「パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる（Q34-2）」「携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる（携帯電話のメールを含む）（Q34-3）」「SNS（Facebook、Twitter、Line、Instagramなど）を利用する（Q34-5）」、新型コロナウイルス感染症による交流の変化（Q43）については「友人・知人や近所付き合いが減った（Q43-6）」「別居している家族と会う機会が減った（Q43-7）」に着目した。なお健康状態については、6割以上が「健康である」、「あまり健康とはいえないが、病気ではない」も加えると9割以上が病気ではないと回答していたために、本分析の説明変数には含めなかった。

分析の結果、各国で異なる傾向が認められた。概要を以下に示していく。

【日本】(図表3-1)

- 「女性」で連絡が増えている
- 「固定電話」「携帯電話」「スマホ」を「日常的に利用している人」で連絡が増えている
- 「パソコンの電子メールで家族・友人に連絡」「SNSの利用」を「している人」で連絡が増えている
- 「友人・知人や近所付き合い」「別居している家族と会う」が「減った人」で連絡が増えている

図表3-1 「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」に関連する要因(日本)

|                         | $\beta$ | オッズ比  | p値      |
|-------------------------|---------|-------|---------|
| 性                       | 0.427   | 1.533 | 0.05 *  |
| 年齢                      | -0.009  | 0.991 | 0.62    |
| 日常的に利用するツール:            |         |       |         |
| 固定電話の利用(しない→している)       | -0.494  | 0.610 | 0.03 *  |
| 携帯電話の利用(しない→している)       | 0.856   | 2.355 | 0.00 ** |
| スマートフォンの利用(しない→している)    | 0.598   | 1.819 | 0.03 *  |
| タブレットの利用(しない→している)      | 0.243   | 1.275 | 0.42    |
| パソコンの利用(しない→している)       | -0.034  | 0.967 | 0.89    |
| オンラインでの交流:              |         |       |         |
| パソコンの電子メールで連絡(しない→している) | 0.611   | 1.843 | 0.03 *  |
| 携帯電話・スマホで連絡(しない→している)   | 0.555   | 1.741 | 0.13    |
| SNSの利用(しない→している)        | 0.607   | 1.835 | 0.03 *  |
| コロナの影響:                 |         |       |         |
| 友人・知人や近所付き合い(減ってない→減った) | 0.757   | 2.132 | 0.00 ** |
| 別居している家族と会う(減ってない→減った)  | 0.858   | 2.359 | 0.00 ** |

【アメリカ】(図表3-2)

- 「女性」で連絡が増えている
- 「パソコンの電子メールで家族・友人に連絡」「携帯やスマホで家族友人と連絡(メールを含む)」を「している人」で連絡が増えている
- 「友人・知人や近所付き合い」「別居している家族と会う」が「減った人」で連絡が増えている

図表3-2 「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」に関連する要因(アメリカ)

|                         | $\beta$ | オッズ比  | p値      |
|-------------------------|---------|-------|---------|
| 性                       | 0.555   | 1.742 | 0.03 *  |
| 年齢                      | 0.007   | 1.007 | 0.67    |
| 日常的に利用するツール:            |         |       |         |
| 固定電話の利用(しない→している)       | 0.100   | 1.105 | 0.72    |
| 携帯電話の利用(しない→している)       | -0.304  | 0.738 | 0.35    |
| スマートフォンの利用(しない→している)    | 0.569   | 1.767 | 0.06    |
| タブレットの利用(しない→している)      | 0.230   | 1.258 | 0.38    |
| パソコンの利用(しない→している)       | -0.252  | 0.777 | 0.41    |
| オンラインでの交流:              |         |       |         |
| パソコンの電子メールで連絡(しない→している) | 0.704   | 2.022 | 0.02 *  |
| 携帯電話・スマホで連絡(しない→している)   | 0.912   | 2.490 | 0.02 *  |
| SNSの利用(しない→している)        | 0.415   | 1.514 | 0.11    |
| コロナの影響:                 |         |       |         |
| 友人・知人や近所付き合い(減ってない→減った) | 1.212   | 3.360 | 0.00 ** |
| 別居している家族と会う(減ってない→減った)  | 1.084   | 2.957 | 0.00 ** |

【ドイツ】(図表3-3)

- 高齢者のなかでも「年齢」が低い人で連絡が増えている
- 「タブレット」を「日常的に利用している人」で連絡が増えている
- 「携帯やスマホで家族友人と連絡(メールを含む)」を「している人」で連絡が増えている
- 「友人・知人や近所付き合い」「別居している家族と会う」が「減った人」で連絡が増えている

図表3-3 「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」に関連する要因(ドイツ)

|                         | β      | オッズ比  | p値      |
|-------------------------|--------|-------|---------|
| 性                       | -0.033 | 0.968 | 0.89    |
| 年齢                      | -0.034 | 0.967 | 0.04 *  |
| 日常的に利用するツール:            |        |       |         |
| 固定電話の利用(しない→している)       | -0.185 | 0.831 | 0.64    |
| 携帯電話の利用(しない→している)       | 0.37   | 1.447 | 0.38    |
| スマートフォンの利用(しない→している)    | 0.758  | 2.135 | 0.08    |
| タブレットの利用(しない→している)      | 0.692  | 1.998 | 0.01 *  |
| パソコンの利用(しない→している)       | 0.464  | 1.591 | 0.07    |
| オンラインでの交流:              |        |       |         |
| パソコンの電子メールで連絡(しない→している) | 0.296  | 1.344 | 0.25    |
| 携帯電話・スマホで連絡(しない→している)   | 1.333  | 3.794 | 0.00 ** |
| SNSの利用(しない→している)        | -0.035 | 0.966 | 0.89    |
| コロナの影響:                 |        |       |         |
| 友人・知人や近所付き合い(減ってない→減った) | 1.702  | 5.483 | 0.00 ** |
| 別居している家族と会う(減ってない→減った)  | 0.689  | 1.992 | 0.01 *  |

【スウェーデン】(図表3-4)

- 「女性」で連絡が増えている
- 「パソコンの電子メールで家族・友人に連絡」「SNSの利用」を「している人」で連絡が増えている
- 「友人・知人や近所付き合い」「別居している家族と会う」が「減った人」で連絡が増えている

図表3-4 「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」に関連する要因(スウェーデン)

|                         | β      | オッズ比  | p値      |
|-------------------------|--------|-------|---------|
| 性                       | 0.480  | 1.617 | 0.00 *  |
| 年齢                      | 0.002  | 1.002 | 0.88    |
| 日常的に利用するツール:            |        |       |         |
| 固定電話の利用(しない→している)       | -0.054 | 0.947 | 0.76    |
| 携帯電話の利用(しない→している)       | -0.005 | 0.995 | 0.98    |
| スマートフォンの利用(しない→している)    | -0.020 | 0.980 | 0.92    |
| タブレットの利用(しない→している)      | 0.066  | 1.068 | 0.66 *  |
| パソコンの利用(しない→している)       | 0.229  | 1.258 | 0.18    |
| オンラインでの交流:              |        |       |         |
| パソコンの電子メールで連絡(しない→している) | 0.507  | 1.660 | 0.00 ** |
| 携帯電話・スマホで連絡(しない→している)   | 0.364  | 1.439 | 0.15    |
| SNSの利用(しない→している)        | 0.371  | 1.449 | 0.02 *  |
| コロナの影響:                 |        |       |         |
| 友人・知人や近所付き合い(減ってない→減った) | 0.462  | 1.587 | 0.03 *  |
| 別居している家族と会う(減ってない→減った)  | 0.773  | 2.167 | 0.00 ** |

#### 4. アフターコロナと高齢者のコミュニケーション

ネガティブな影響ばかりに目がいきがちな新型コロナウイルス感染症であるが、リモートワークなどの働き方の選択肢が定着するなど、これまで遅々として進まなかった変革に踏み出すきっかけを得たのは好材料ともいえる。この動きのなかで、諸外国にくらべて後れをとる高齢層とオンラインの関係性も、大きく変化しつつあることが考えられる。特にコミュニケーションの手段としてのオンラインの活用については顕著で、著者の関わる都市部の一般高齢者を対象にしたインタビュー調査では、休止したままのサロンのメンバー達とつながりたくてLineをはじめたという話や、今までは気軽に会えた身近な仲間や友人と会えない寂しさからスマートフォンにチャレンジしたという話が聴かれている。

実際に、この国際比較調査に協力を頂いた夫婦のみで暮らす高齢者でも、日本でも3割が「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」と答えていた。さらに、「増えた」人は、友人・知人や別居している家族と会う機会が減った人ほどに多かった。この質問はオンラインに限定したものではないが、各国共にオンラインでの交流の有無と「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」との間に関連が認められたことから、コミュニケーションの手段としてオンラインを活用する高齢者が増えていることが予想される。

オンラインでの交流の有無は「パソコンの電子メール」「携帯電話・スマホ（メールを含む）」「SNSの利用」の3つに着目したが、「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」との間に関連が認められた項目は各国で異なった。「SNSの利用」については、日本とスウェーデンのみで関連が認められた。日本では孫などとの連絡手段としても普及しつつあるLineが想定され、使われているSNSも、両国で異なっていることが考えられる。

さらに、日常的に利用するツールとして「固定電話を利用する」「携帯電話を利用する」については、「メール、電話、オンラインでの連絡が増えた」との間に関連が認められたのは日本だけであった。このことから、高齢層のコミュニケーションの手段としてオンラインを普及させていくためには、それぞれの国や地域に定着したツールや使い方をベースに支援を考えていくことが求められているといえる。

会うことや集うことを補完するコミュニケーションの手段として高齢者がオンラインを活用することができれば、それまで築いてきた同居家族の外に広がる社会関係を長く維持し、孤立化の抑止にもつながっていくことが期待される。コロナ禍の毎日は、オンラインを活用してきた人がさらに活用を進めただけではなく、使える人が活用するきっかけや、使えない人・使いたくない人に活用への気づきを与えた時間ともいえるのではなかろうか。今後、普及が進んでも一定割合は存在するであろう「使えない人」「使いたくない人」への支援のあり方も考えつつ、人生100年時代に、豊かに歳を重ねるためのオンラインの活用に積極的に取り組んでいくことが求められている。